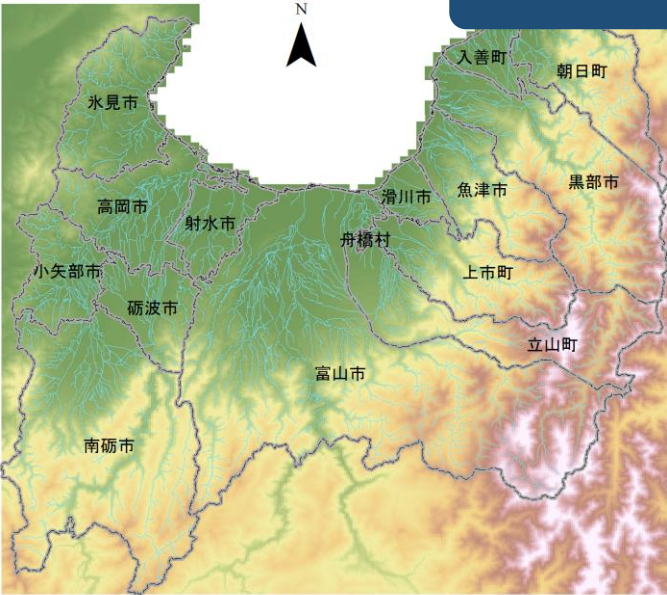
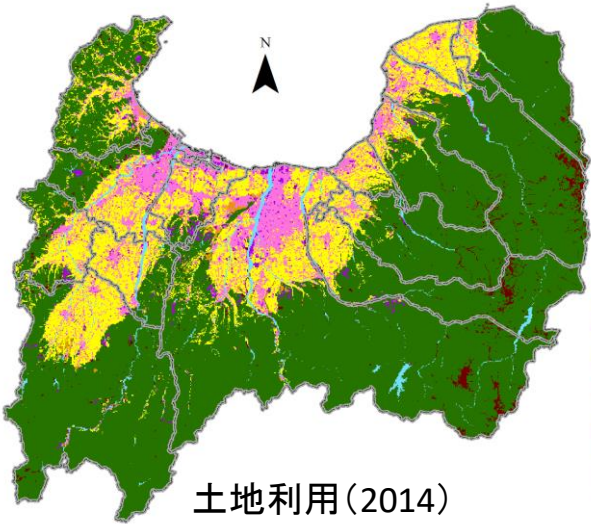
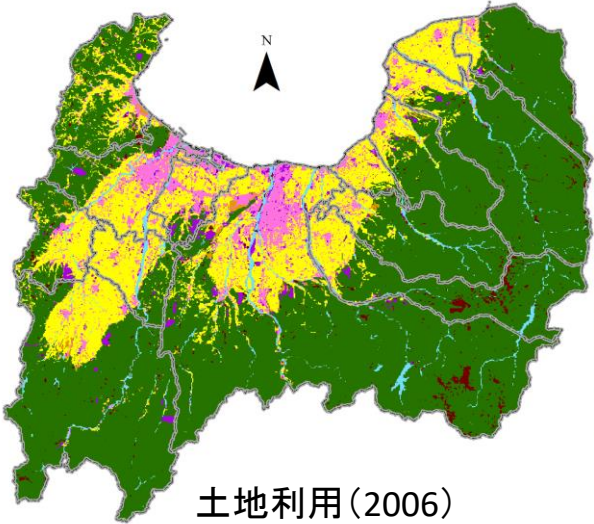
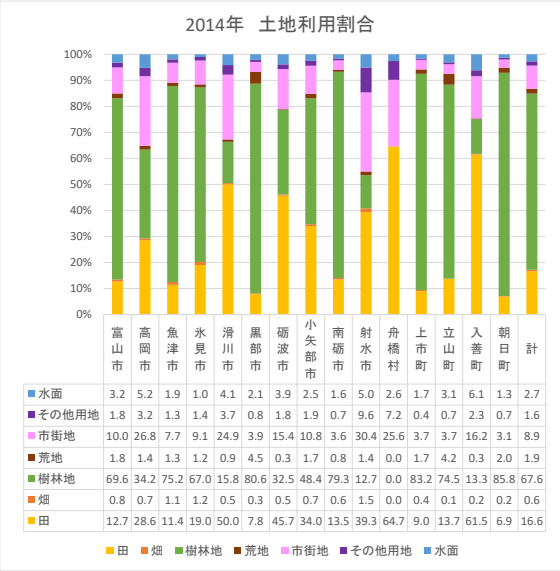
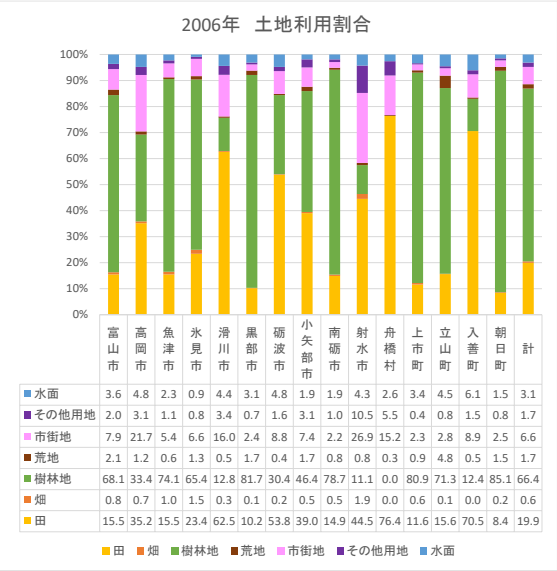


# 富山県 土地利用変化 2006年～2014年の分析例

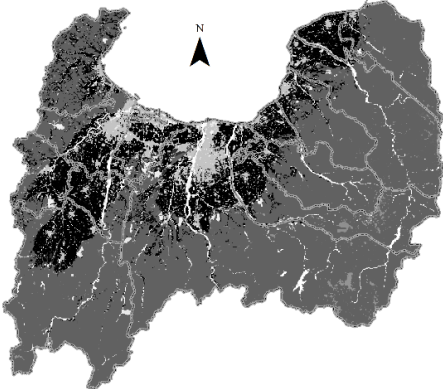
■国土数値情報の土地利用データを用いて、2時期の土地利用変化を把握



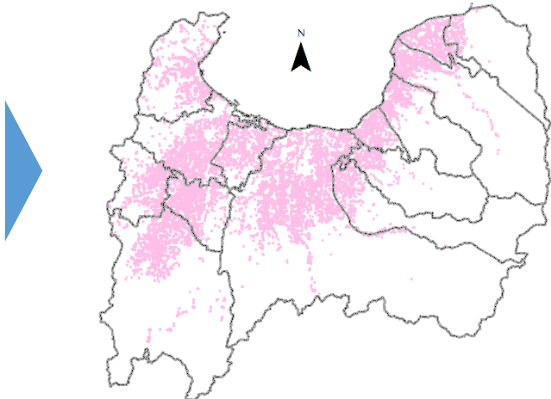
行政界と地形・標高(250mメッシュ)



## ■市街地への変化の可視化



49通りの変化パターン図



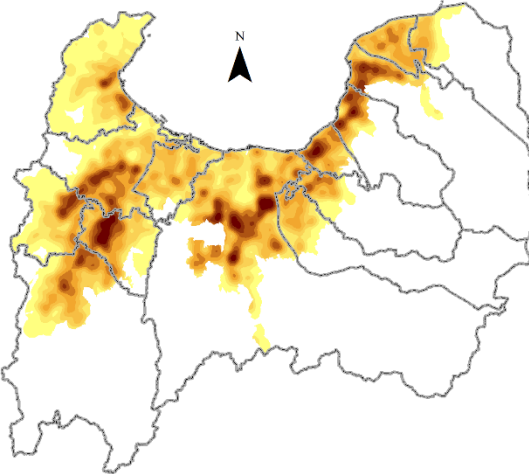
市街地へ変化した地域の抽出

## ■2時期の土地利用変化パターン

7種類の土地利用種別に対して49通り(7×7)の変化パターンが存在するが、最も大きな変化量は、田から市街地への変化(117.4km<sup>2</sup>)であった。  
そこで、市街地への変化を可視化して把握した。

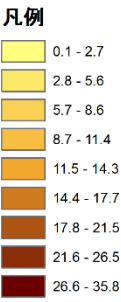
|           | 2014年 |      |         |      |       |         |      |
|-----------|-------|------|---------|------|-------|---------|------|
|           | 1:田   | 2:畑地 | 3:樹林地   | 4:荒地 | 5:市街地 | 6:その他用地 | 7:水面 |
| 2006年 1:田 | 652.4 | 3.3  | 46.7    | 3.0  | 117.4 | 11.3    | 9.1  |
| 2:畑地      | 1.3   | 16.1 | 4.1     | 0.3  | 2.4   | 0.3     | 1.0  |
| 3:樹林地     | 18.3  | 3.0  | 2,755.3 | 51.4 | 7.0   | 5.3     | 7.2  |
| 4:荒地      | 0.8   | 0.4  | 43.9    | 21.2 | 0.9   | 2.3     | 2.9  |
| 5:市街地     | 22.6  | 2.3  | 8.2     | 1.0  | 236.0 | 9.4     | 3.0  |
| 6:その他用地   | 3.5   | 1.3  | 14.1    | 2.0  | 12.5  | 36.6    | 2.0  |
| 7:水面      | 6.0   | 0.4  | 26.1    | 6.0  | 3.7   | 2.9     | 98.1 |

土地利用変化パターン(km<sup>2</sup>)



カーネル密度による市街地への変化箇所の可視化

他の土地利用から市街地へ変化した地域を抽出し、カーネル密度推定法(検索半径1,500m)により、可視化した。色が濃いほど市街地へ変化した箇所が多いことを示している。

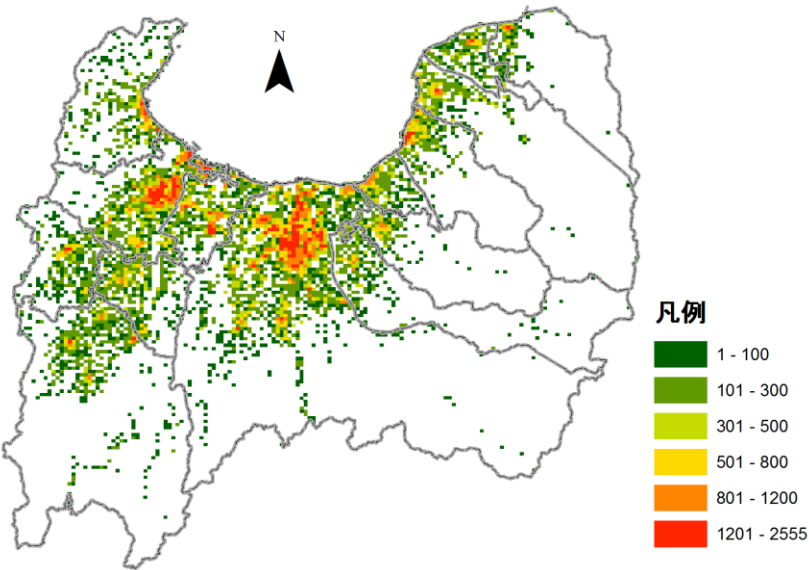


## 市街地変化地域の密度推定

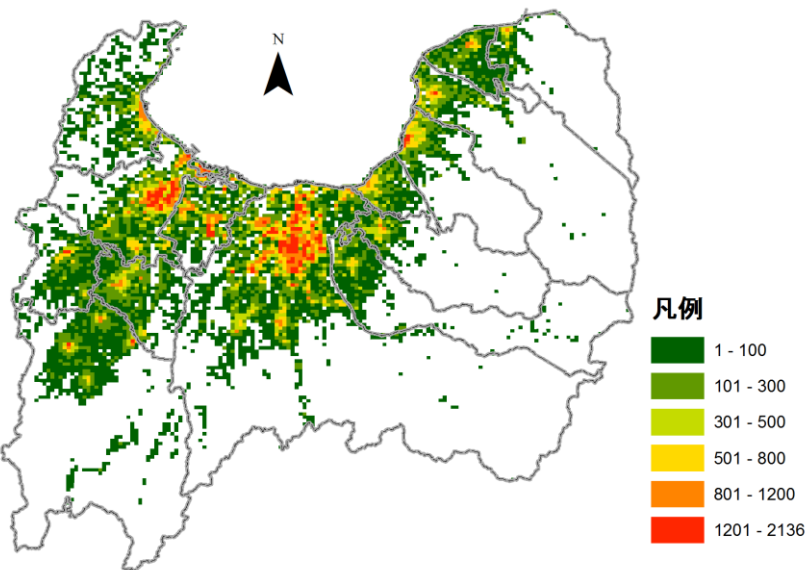
# 富山県 人口変化 2000年～2010年の分析例

## ■人口分布の変化

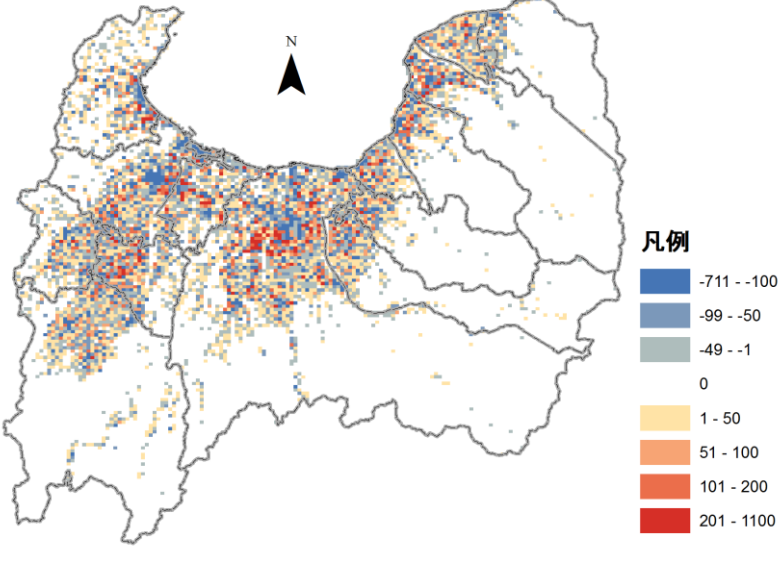
500mメッシュ単位の国勢調査データを用い、2000年と2010年の人口分布およびその変化量を把握した。



人口分布(2000年)・500mメッシュ単位



人口分布(2010年)・500mメッシュ単位



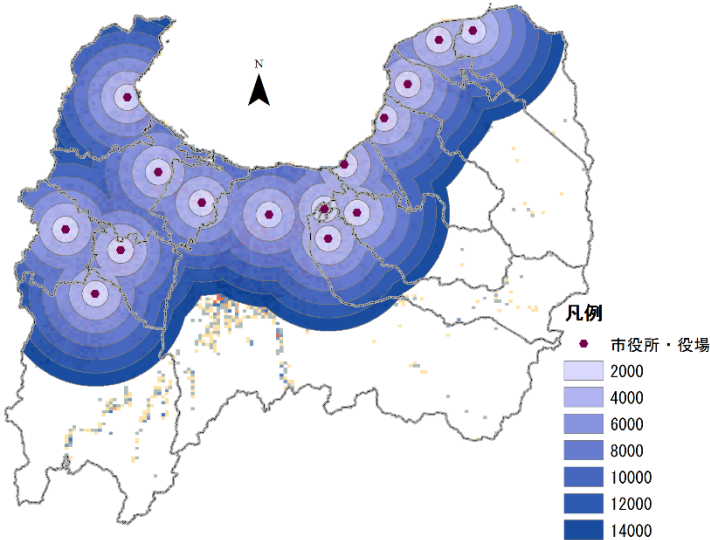
人口変化(2000→2010)・500mメッシュ単位

2000年から2010年にかけて、人口の分布域が拡散している(緑色が増加)様子が伺える。

両年次での人口増減数を見ると、中心市街地で減少、その周辺で増加傾向にある。

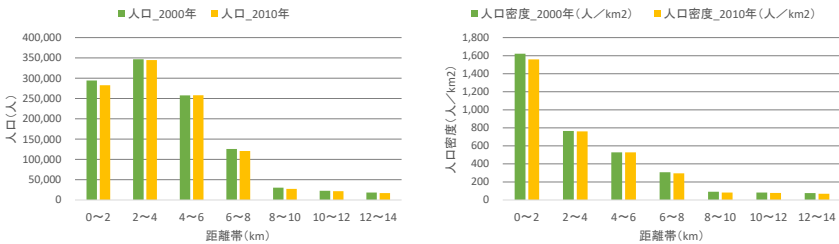
## ■距離帯ごとの人口変化

人口変化の空間的特性を把握するため、市役所・役場を中心に2km幅のバッファゾーンを発生させ、距離帯ごとに人口変化を算出した。



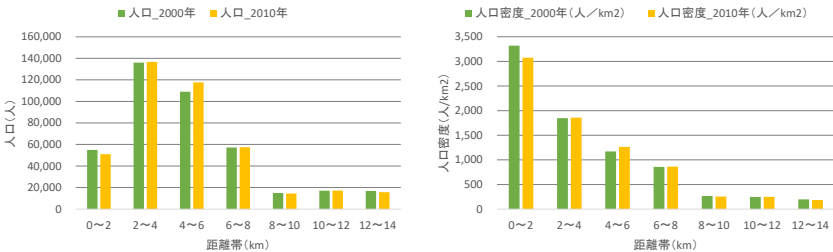
2kmバッファゾーンの作成

### ・県全域での距離帯別人口および人口密度



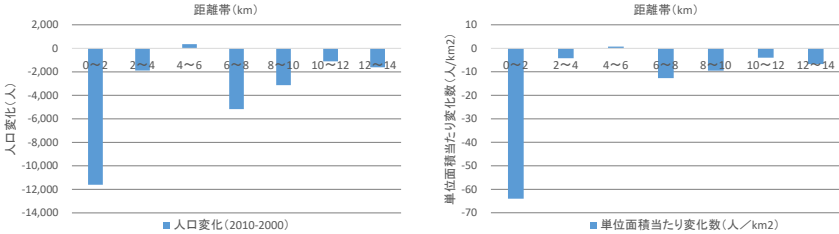
中心部から離れるに従い、人口密度は低下

### ・富山市での距離帯別人口および人口密度



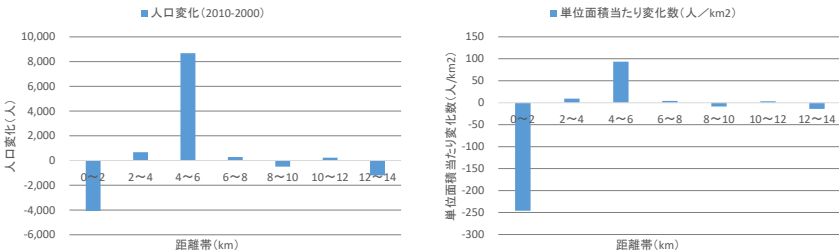
中心部から離れるに従い、人口密度は低下する。2000年から2010年にかけて、0～2kmでは人口密度が低下し、4～6kmでは増加している

### ・県全域での距離帯別人口変化数および単位面積当たり変化数



4～6kmを除く、すべての距離帯で減少傾向にあるが、特に0～2kmでの減少が顕著

### ・富山市での距離帯別人口変化数および単位面積当たり変化数



0～2kmでは減少傾向が著しいが、4～6kmでは増加傾向にある

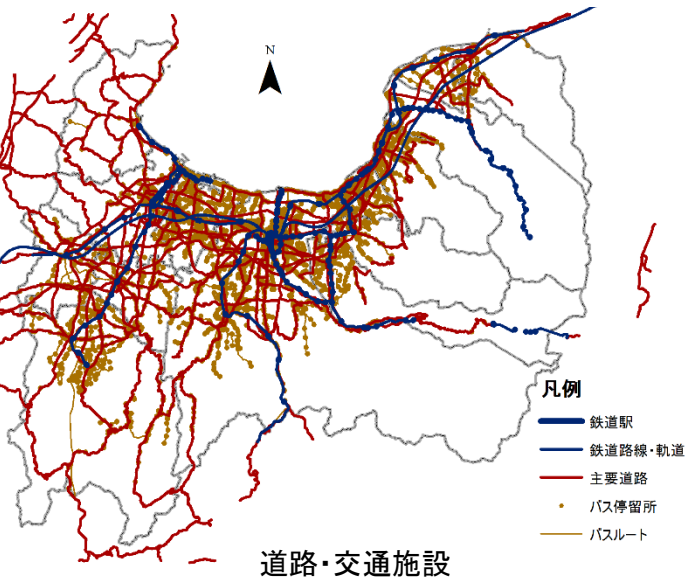
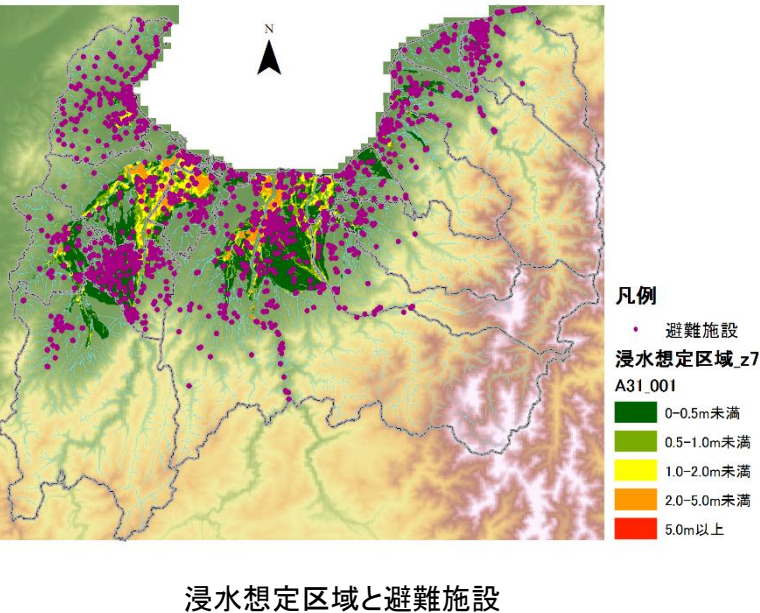
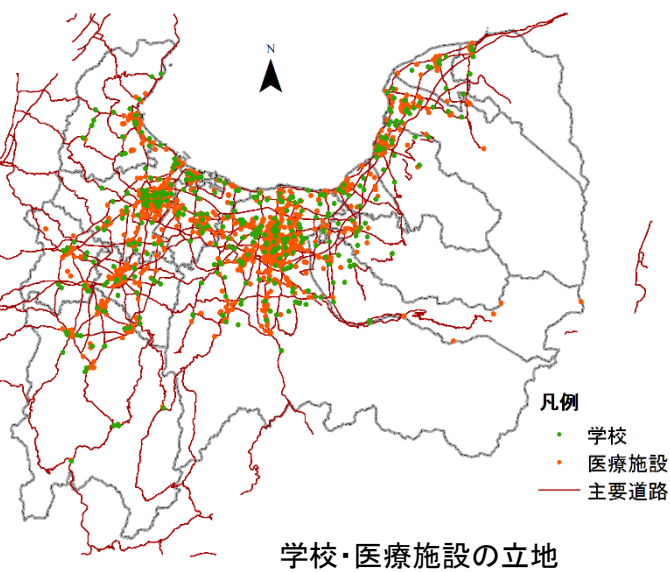


# 富山県 利便性から見た住環境評価の分析例1

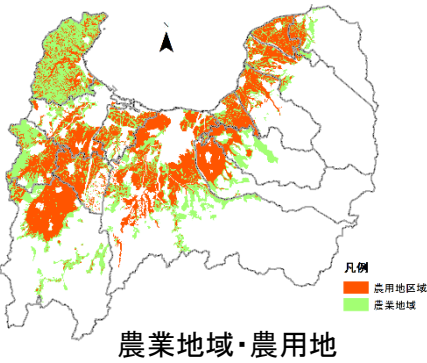
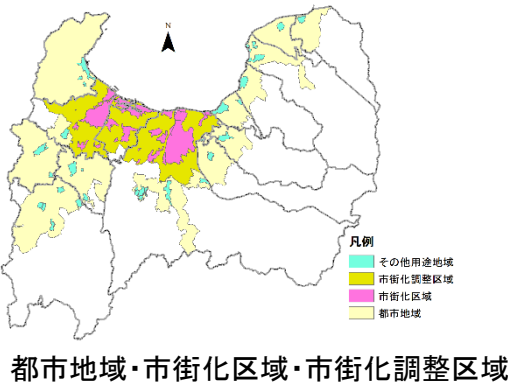
## 住環境評価の考え方

主要道路, 鉄道駅, バス停留所, 学校, 避難所への到達距離および医療施設の密度を利便性の指標として, 住環境評価を行った. 国土数値情報のデータを使用し, 富山県内の都市地域を評価対象とした.

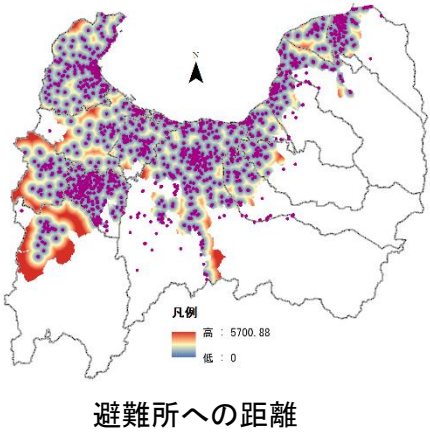
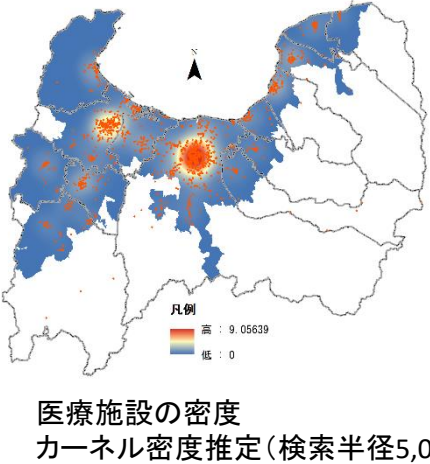
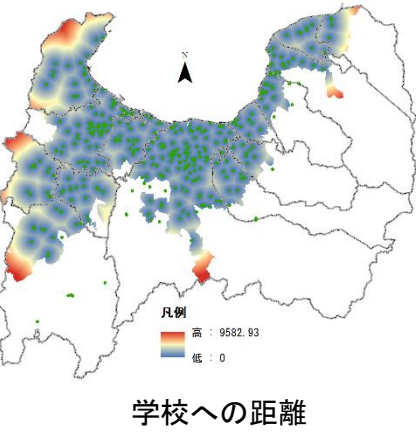
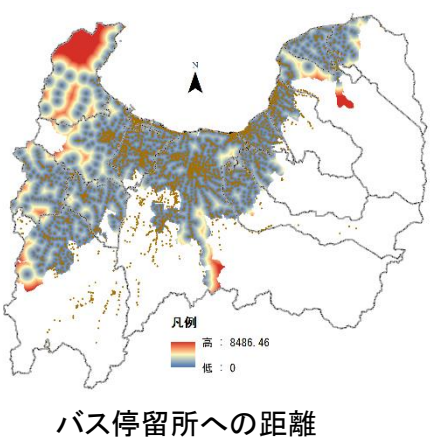
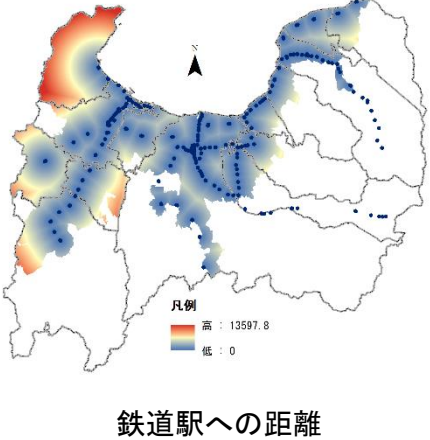
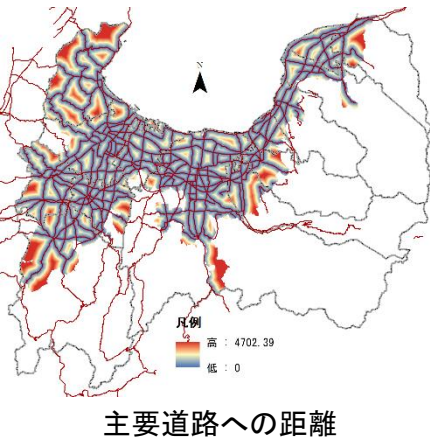
## 評価対象施設の立地状況



## 地域指定状況



## 各施設への距離および密度の算出

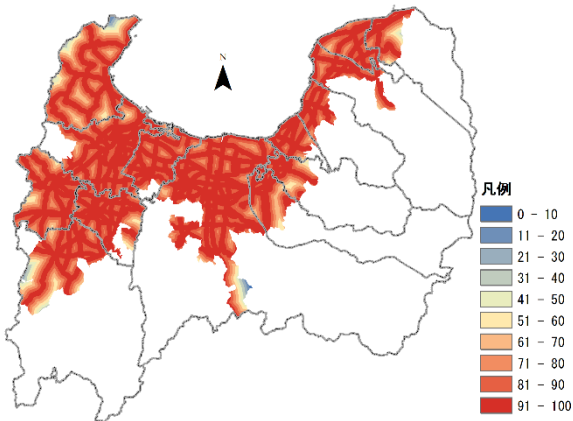


# 富山県 利便性から見た住環境評価の分析例2

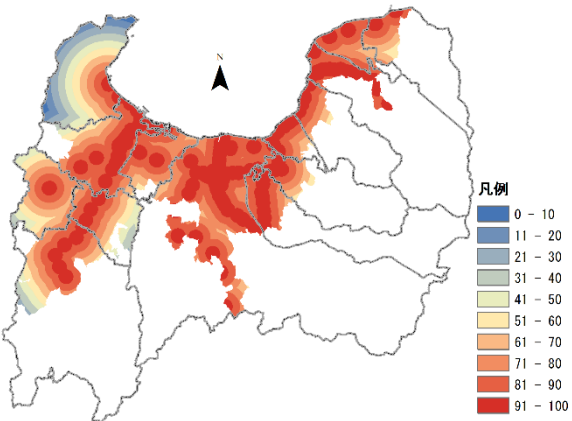
## 各指標の得点化

主要道路, 鉄道駅, バス停留所, 学校, 避難所への距離および医療施設の密度を, それぞれ0~100の範囲で得点化した。

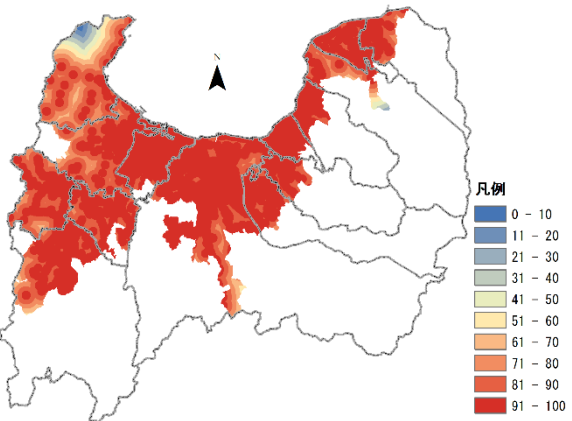
得点が高い地域は施設に近いか高密度, 低い地域は施設から遠いか低密度を示す。



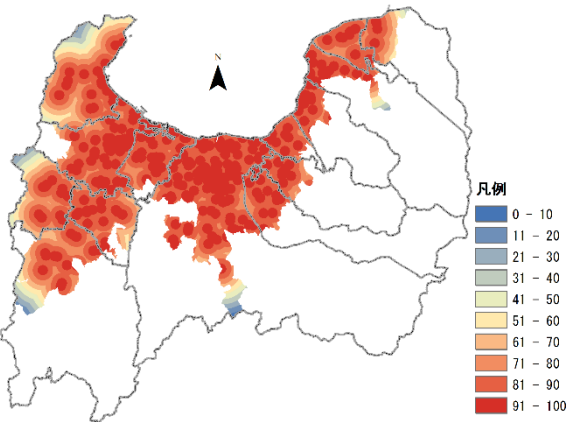
主要道路への距離



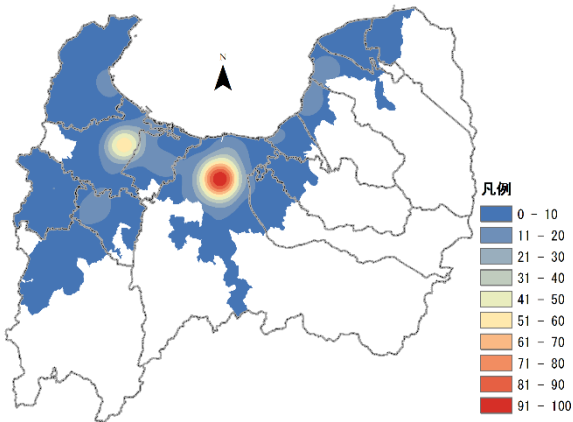
鉄道駅への距離



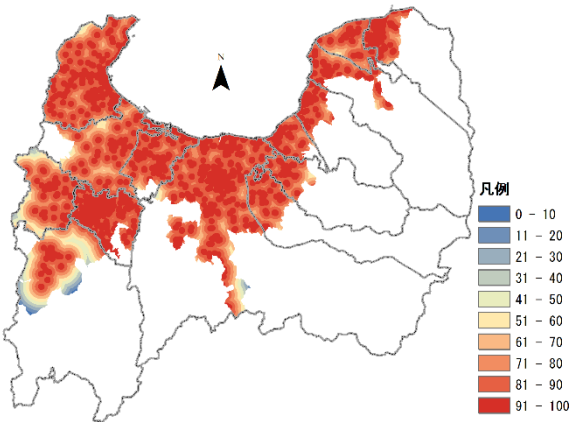
バス停留所への距離



学校への距離

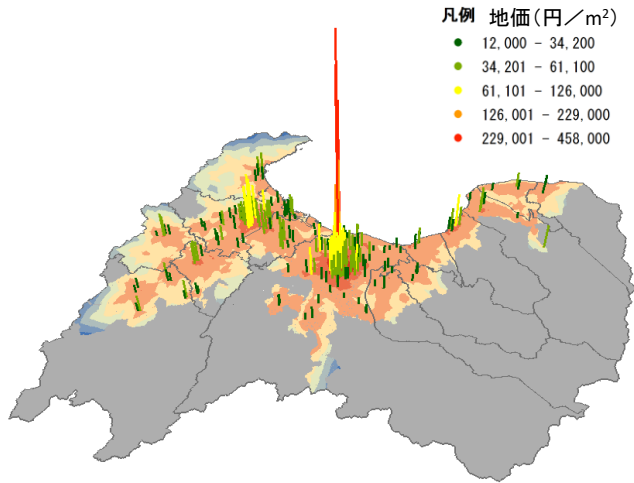


医療施設の密度



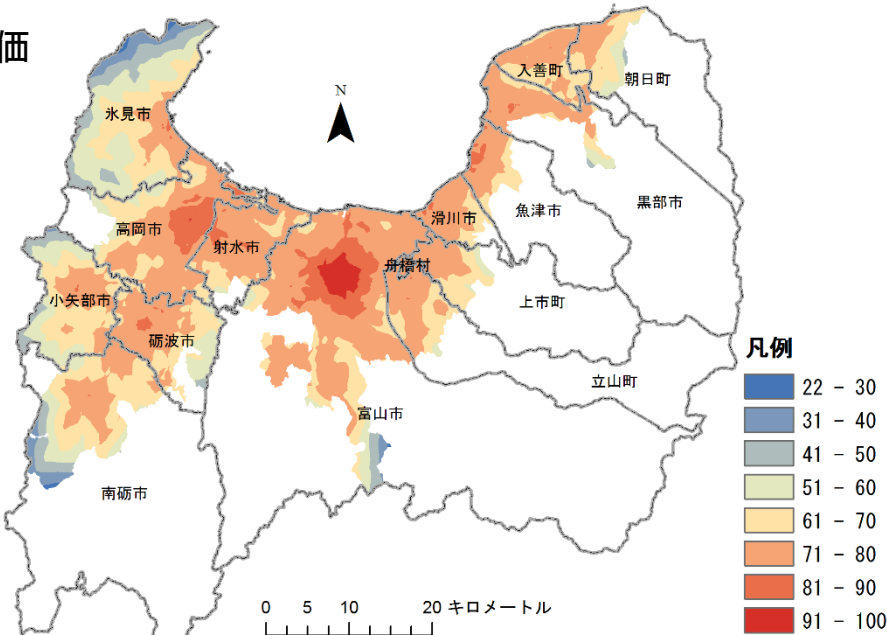
避難所への距離

## 総合評価値と地価(2016年)の関係

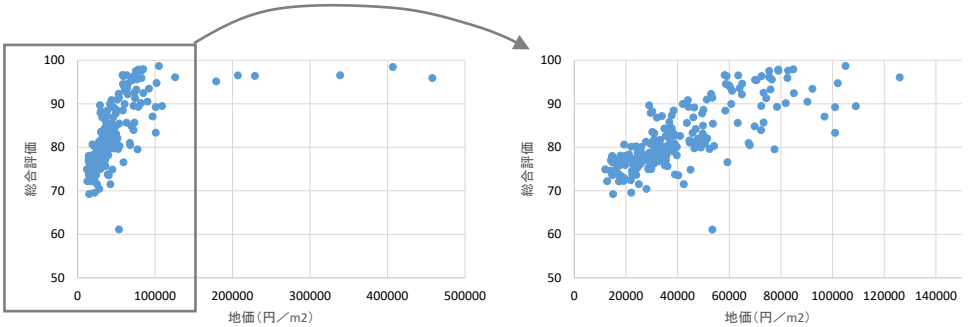


## 指標得点の合算による総合評価

医療施設の密度, 主要道路への距離, 鉄道駅への距離, 学校への距離の4指標については, それぞれ20%の重み, バス停留所への距離と避難所への距離の2指標については, それぞれ10%の重みで, 各指標得点を合算し総合評価を行った。



総合評価値



富山市や高岡市の中心部で, 利便性による住環境の総合評価値が高い地域がみられる。また, 総合評価値と地価の間には, 正比例の関係が認められる。